



TITLE:

「むすび」の道と統營經濟

AUTHOR(S):

作田, 莊一

---

CITATION:

作田, 莊一. 「むすび」の道と統營經濟. 經濟論叢 1938, 47(1): 1-17

ISSUE DATE:

1938-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131125>

RIGHT:

# 京都市大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第一號

昭和十三年七月一日發行

(禁轉載)

## 論叢

「むすび」の道と統營經濟……………經濟學博士 作田莊一  
清算貿易制の諸形態……………經濟學博士 谷口吉彦

## 時論

戰時の農業政策……………經濟學博士 八木芳之助  
消費節約に就いて……………經濟學士 柴田敬

## 研究

ナチス革命の原理と價值の轉換……………經濟學士 中川與之助  
生命保險料の一考察……………經濟學士 近藤文二  
資本の流動化と再投資に就て……………經濟學士 有井治  
日本莊園の構造……………經濟學士 江頭恒治  
貿易理論について……………經濟學士 松井清

## 說苑

貨幣の本質と價值……………經濟學士 岡橋保  
問屋制工業の資本主義的性格……………經濟學士 堀江英一

## 附錄

彙報  
外國雜誌論題

# 經濟論叢

第四十七卷 第一號 (通卷第貳百七拾七號) 昭和十三年七月發行

## 論 叢

### 「むすび」の道と統營經濟

作 田 莊 一

#### 一

曾て本誌に於いて、私は「經濟道と經濟術」と題する論文を掲げ、その中にて、人生の目的が生存・幸福・安寧・造化の四階段を上ぼつて行くことを説き、經濟生活の道も最高の階段たる造化主義を執るべきことを主張した。今世間の實勢を見るに、幸福主義・功利主義・營利主義・資本主義の國民經濟は孰れの國にても次第に窮迫の途を辿りつゝある。多くの國の資本經濟は、國民主義の興隆に際し、國家の統制下にその餘命をつなぎ居る有様にて、若も國家がその自立の爲にする國民經濟の統制を中止したならば、恐らく資本經濟はその支持力を失つて、人々の意外とする陷落の方向に推し遣られるであらう。この現勢の間にあつて吾人は再び造化主義經濟を取擧げ、更にこれを國民經濟の新しい組織の中に收容することによつて、この至上の經濟主義を具現し得る所以を

「むすび」の道と統營經濟

第四十七卷

一 第一號

一

\*經濟論叢大正十一年二、三、六、七、十、十一、十二月號。

明かにするであらう。

×

×

經濟生活は如何なる原理に由つて行はれるか、如何なる主義に據つて行はるべきか。近代科學の一種たる社會科學に屬する近代經濟學は、原理に於いては、交換價值又は商品價值並に市場的價格及び社會的流通の理論に終始する。個人主義者も社會主義者も同じ流通經濟を異つた角度から觀察するに過ぎない。經濟主義に於いても、個人主義者は個人自由と最大收益とを目標となし、社會主義者は個人聯帶と共同收益とを目標とするが、結局は經濟生活を手段と見る所の歐羅巴近代の主流たる功利主義を出で得ない。然るに如上の原理及び主義は今や破綻に頻するに到つた。交換價值・商品價值・市場的價格・及び社會的流通の原理は、私別財の生産が通例であり、公共財の生産が例外であり、私別財の流通が順調に行はれ、偶々澁滞しても再び順調に回復し得る間にのみ廣く妥當する。然るに最近の國民經濟は商品經濟の情勢に大なる變化を生じつゝある。即ち私別財に比べて公共財が次第に増加しつゝある。國防・衛生・教育・文化等に要する公共財の外に、生産用具も亦大規模となるに従つて私別財としては所有し切れず、所有し得ても利用し切れず、個人より會社へ、トラストへ、國策會社へ、國家へと、利用當事者を移しつゝある。かゝる公共財は私別財に見られるやうな價值・價格・流通の法則に従はない。公共財を強いて流通機構に推込むときは、大きな摩擦を起こして機構の破綻とならざるを得ない。我が國の現状を見ても軍事國防に用ゐられる財物は本來商品ではない。歐米の軍需品製造は、可なり國際流通に入込む商品生産となつてゐるが、我國の場合は概して非商品生産である。然るにその非商品の大部分は商品經濟の機構によつ

て生産されつゝあるが、これは明かに無理であり、これが長く續けば機構の破綻は必然であらう。それは恰も陸海軍士官の養成を授業料収入を目的とするやうな一部の私立學校に任かせて置いて安心してゐるやうなものである。軍事國防の爲にする公共財の生産は恐らく暫時のことではあるまい。ましてや廣く公共財の増加する傾向は永續的である。それは社會生活の緊密化と國家生活の擴充化とより來り、またかゝる趨勢は世間生活そのものの進運に外ならぬ。

公共財の増加によつて、國民經濟は進歩すれども、流通經濟は收縮する。この收縮を償ふかの如く、流通の場面は世界經濟に擴大せられた。されど世界流通經濟も亦國民經濟の國境が嚴守されるにつれて、その前途を抑へられた。今の流通の收縮を以て一時の反動状態と見るは謬りである。近代式の流通經濟は一應その行く所まで行つて、今後は新しい他の經濟形態に移すものと考へなければならぬ。

經濟主義に就ても、個人自由や最大收益の主義は、封建の桎梏を破つて新しい生産方法を發展せしめる任務の爲に出現せるものであつて、それは必ずしも常道ではない。經濟主義即ち最大收益主義であると教科書に殆ど洩れなく記述されるまでになり、多くの人をして經濟生活は個人生活であると考へしめるに到つた近代の思想及び行續を改めることは決して容易でない。されど、歴史の進展はこの難題をも解決せしめなければ已まないと思はれる。社會主義は個人主義を批判し矯正する點に於いて傾聴に値する。されどこの主義は右傾を左傾せしめるに止まり、正道としては斷じて推稱さるべきものではない。ソヴィエト・ロシアを見よ。既往二十年の實績は、資本主義制の惡弊を矯正せる點に於いて貢獻をなしてゐるが、その思想には何の權威もなく、事實に於いては他の一

國も此國に追隨するものなく、否却つて反ソヴェト風潮が世界に亘つて力強く興隆せるほどである。この點は先にフランス大革命が諸國に與へたる影響と甚しく相違してゐる。斯の如きは思ふに、社會主義なるものが現代の最大の要求たる全體精神の自覺及び顯現に到達し得ない近代の遺物なるが故であらう。

近代の經濟原理及び經濟主義は已に時代の任務を果たし、残る所は舊套を墨守する惰性と餘弊とである。現代は新たなる經濟原理を求め經濟主義を立て、開展の途に上らなければならぬ。又動向としては已にその途が開かれてゐる。しかし我等は全く新しいものを考へ出すのではなく、却つて「近代」を超越するには寧ろ近代以前の優れたる思想を回顧し、否な、古代のものが今日も深く人心に刻銘されるやうに、實は古今を通じて謬らない大道を現代の形相に於いて實現しようとするのであるから、事は決して無理でない。營利主義は古から現はれてゐるが、國民經濟の全面にこれを普及せしめ確立せしめたことは近代の一大特色である。しかしこの主義が人生にとつて良効果を擧げ得るには、一定の前提と制限と期間とを約束せる場合である。この主義に據る國民經濟は、過去百五十年餘に亘つて、前代未曾有の繁榮を齎したるが、やがてこの主義自らが持つ缺點を増大して、逆に國民生活に破綻を來たさしめるやうになつた。この際に先づ營利主義の缺陷に着眼し、これを曝露し痛撃せるものは、經濟勢力階級の對立を指摘し、その解消に乗出せる社會主義殊に共產主義であつた。これは病弊を突いた點に於いては極めて有力であつたが、惜い哉志向に於いて正鵠を失し、階級對立の故に惱める國民生活を顧慮しないのみでなく、過ぎたるは及ばざる如く脱線して、却つて國民生活の破壊に向つて突進した。共產主義は破壊に急にして、近代に代るべき「現代」を持たなかつた。個人聯帶と共同生産との經濟主義は假裝的に結付いたもので

あり、「現代」の要求たる全體精神の自覺及び顯現とは縁遠い所の自然科学的なる「近代」の燒直ほしに過ぎなかつた。ソヴィエト・ロシアに於ける隱蔽政治は共產主義の暗黒面の露呈であり、全體精神を高調する諸國からは共產主義即ちソヴィエト主義に對する同盟防衛となつて、その破壊力を抑へられるに到つた。

## 二

新しい經濟生活の主義としては、我等は太古の祖先が信奉したる「むすび」の道を現代に復現する。二宮尊徳を持出すと、近代産業の前に何の尊徳ぞやと古いものを持出せば嘲笑する者もある。しかし、「むすび」の道ほどに古いものを持出せば、西洋文化即ち世界文化と信じ、世界的普遍性を持たぬ日本精神は採るに足らぬと公言する我國の近代人も、恐らくあつけにとられて沈黙を守るかも知れない。それほど斯の道は「近代」より遠ざかつてゐるが、またそれだけ「近代」を超克して「現代」の光明となつて来る。

「むすび」は換へて言へば造化であり、創造開化である。創造は觀念的なものを現實的ならしめる。即ち初め主客未分の状態にある觀念と現實とから、自發的に觀念力の活動が始まる。それから觀念と現實とが分かれて、創造する主體と創造される客體とが向ひ合つて段々觀念が現實に化して創造が終る。次で客體が出来上つたときは、更に主體は自ら生んだ客體を我が方に迎へてこれを觀照又は實踐の對象とする。その時また主體と客體とが向ひ合ひながら、觀照又は實踐の間に次第に二つが一つのものに歸向し合體する。こゝにて主體と客體とがまた一つの我に歸着するが、その我は創造の初に於ける我に比べて一段と廣い世界に出で、一段と高次の我に登り化する。我が開けて高次の我に化することを開化と云ふ。創造開化の行程に於ては、未分の一元が分化し、分化を收めて

統合の歸一に上ぼる。この一元・分化・統合・歸一の造化の行程は、一つ一つの造化活動に於いて完成し、而かも人生としては不可思議の意味に於ける無限完成の行路を進んで已まない。「むすび」とは生成靈動の意味である。「むす」は「苔のむすまで」の「むす」であり、「むすび」は結びの意味ではない。尤も「むすび」の働く有様には、(一)第一者から低く第二者を直流的に出現せしめる場合、(二)一者が分派して二以上のものを出現せしめる場合、(三)二以上のものが結合して一者を出現せしめる場合、(四)第一者から高く第二者を向上的に出現せしめる場合がある。これを一貫すれば、我が古道に於ける四段發達の原理が見られる。これを各場合に就て見れば、原始状態より開展する際には如上の(一)及び(二)の場合多く、段々に複雑なる生活となれば(三)及び(四)の場合が多くなる。(三)の二以上の要素が結合して一者を成す場合は極めて多く、従つて「むす」から「結ぶ」の語が出たのであらう。財貨の生産は要素的生産力の結合によつて行はれる。

近代の經濟生活は幸福主義―功利主義を指導原則としてゐる。現代に於てはこれを改めて造化主義―期成主義に進めなければならぬ。然らば造化主義を如何に經濟生活に取入れるか。それには先づ近代の大多數の經濟學者が考へてゐるやうな經濟の本質に就ての见解を一擲しなければならぬ。人々は初めから經濟とは社會的範疇に屬するものと決めてかゝる。これを改めて、經濟の本領は世間に出現せる人對物の能動的行爲であると解しなければならぬ。かく見るとき始めて經濟生活に於ける幸福主義と造化主義との選擇が出來得る。而して幸福目的に於ける功利方法にあつては收益が最も重んぜられ、これが遂に近似目的と化する。それが更に世間生活に現はれては利潤の追求が近似目的となる。それが即ち資本主義經濟である。然るに造化目的に於ける期成方法に於ては、



収益を重んずるも、それは畢竟、經濟業績の成敗を示す指標に過ぎない。指標は計畫を導き、更に業績を審査して次の計畫に資する任務を帯ぶる重要な意義を有するも、指標が何を示さうともそれによつて經濟活動の行路を決定することはない。故に造化主義が世間生活に現はれるときは、幸福主義のやうに他人の不幸によつて自己の幸福を求める害悪は生じない。幸福主義に基く營利主義も、前述の如く一定の前提と制限と期間との約束に於ては存在の理由を有する。しかしそれには限界があり、今やその限界は近づいて來た。造化主義は彌榮の道である。こゝにても指標としての収益や價值を重んずるが、しかしそれらは目的でない。造化主義では、生産は價值の造出であるとは言はない。生産の目的は財貨效能の造出であり、消費の目的は效能の消化である。財貨の生産及び消費を通じて人間そのものが向上することが經濟の要旨であり、生産は決して消費の手段ではなく、生産の創造に引續いで消費による開化が不可分に連續する。經濟生活は決して他の生活の手段ではなく、經濟生活に於ける創造開化は他の生活に於ける創造開化と不可分に結付き、一體としての人間の向上が期待される。社會主義者は資本主義を痛撃するが、資本主義は單に世間生活に於いて他人の勞苦を犠牲とする自己の快樂を目標とするのみでなく、そも／＼資本主義の中核たる幸福主義なるものが人間を迷はしめ、最上の幸福すらも歡樂極まつて悲哀を生ずる本質を内藏することは、社會主義といへども心付かない。國民生産力が私別財から公共財に移ることは世間生活に於ける必定の方向であるが、只だこの方向につられて私有財産制を變革するだけにて資本主義制を克服し得ると考へる程度では、未だ以て「資本經濟批判」と銘を打つだけの威力はない。經濟生活を社會的範疇に推込め、機械そのものは經濟的範疇に屬しないと云つてゐるマルクス理論は、造化主義經濟を了解するまで

に可なりの距離にある。資本主義を撃たしめるに社會主義を以てするも一つの妙案であるかも知れぬ。しかし日本精神からこの對立鬭争を見れば、共に經濟生活の貴きを知らぬ兩陣營の物質人間の争に過ぎない。

### 三

造化主義は人對物の生活に把持されるが、然らばこの生活を具現すべき世間生活の場は何處であらうか。それは社會經濟の中に立つ個人經濟（社團經濟を含めて）には行はれ得ない。蓋し個人意志（社團意志を含めて）は社會勢力の下に壓迫され、盲目的・無觀念的・唯物的なる社會勢力は、造化の如き高級の志向を包攝する能力を持合はさないからである。また總體經濟の中にても、世界經濟は尙ほ無觀念的であるから、こゝにも造化主義は勿論、一定の志向による經濟を立てることは出來得ない。唯だ國民經濟のみは、國家意志によつて意識的に動かされてゐるから、こゝにのみ一定の主義に據る經濟生活を具現し得る。國民經濟に於ては對物經濟主義として、幸福主義と造化主義との孰れをも選擇し得る。近代國民經濟は自然に發生したる社會經濟を取容れたものであるから、或程度までは強いられて幸福主義を採り、それが世間生活の場面に於て營利主義・資本主義の流通經濟となつて現はれた。造化主義は今までのやうな流通經濟では實現し難い。蓋し流通經濟では、生産者と消費者とが別個の人格となるから、先に述べたやうな創造開化の過程が分解されて、創造ともならず開化ともなり得ないからである。造化主義は全一體に於いてのみ實現し得られる。而して國民經濟を全一體の總體經濟生活たらしめるには、それが國民經濟目的を遂行する所の計畫經濟とならなければならぬ。尙ほまた計畫經濟であつても、統制經濟の階段に止まる間は、摩擦抵抗が多く、造化主義的計畫を貫徹することが出來ない。その計畫經濟は必

すや統營經濟にまで高められなければならぬ。私は曾て本誌に於いて「經濟統制の理論的根據」と題する小篇を掲げ、そこでは廣義の經濟統制の中に規律統制又は監督統制と計畫統制又は經營統制とを含ましめた。然るに世間の用語例は概して狹義の規律統制のみを統制經濟と呼ぶやうであるから、今はこれに従ひ、國民經濟の計畫及び實施の中にて、私企業の自立性を認めて、國家が統一的計畫に従つて私企業を規制する場合を統制經濟と呼び、進んで國家が私企業の自立性を否定し、これを公企業の委任代位者と見做し、國民經濟を統一的に經營する場合を新たに統營經濟と呼ぶこととする。

統營經濟は國民經濟の統一的經營であり、國の統治に即する國民經濟の經營である。こゝでは國家意志が主動者となり、國人を率ゐて國民的生産及び消費の業務を計畫し實行し、その目的及び收果は國の富の増殖並に普及である。統營經濟の行はれる國民經濟では、國民團體が統一的全體を成し、その中にて國民經濟業務が經營されるのである。人々は國家意志の總持の下に立ち、分業によつて生産し分益によつて消費し、分擔及び分受の按分關係に於いて國民經濟そのものが一體系を成して經營される。國を表現する國家意志が統一的に經濟業務を經營する點に於いて統制經濟と異なる。統制も統營も共に計畫的であり、國の富の増殖並に普及を目標とする廣義の計畫經濟である。しかし統制經濟は國家が計畫するも、實行に當つては私企業の自立性を認め、國家はそれを目的及び計畫に適應するやうに規制するに止まる。然るに統營經濟は國家が計畫に次いで實行に當る。但しこの場合に總ての企業が國營又は官營に移されるのではない。官營又は地方自治體經營に適するものはそのやうになし、數に於いて多い民間の企業はこれを統一的國民經濟の構成分と認め、それらは放任された企業でなく、國の委任

せる企業として待遇される。委任事業であるから、國家はこれを制するのではなく、これを指圖して業績を擧げしめるのである。もと一切の企業は對世的供給を目的とするものであり、企業に用ゆる生産力の造出及びそれらの結合も決して個人的に行はれず、國民的に行はれる。この場合に企業が私人に放任されるときは、その國民的運營が社會勢力によつて無計畫的に行はれるが、これを國家威力の下に移し計畫的に實行することが即ち統營經濟の特色である。經營の主體が唯一の國家に移るが故に、民間自主の企業は國の委任による企業に轉化する。否寧ろ企業の実質を見るならば、交換經濟時代に出現したる手工業及び商業は概して私人即ち社會人の創意に出でたるものであるが、近代國民經濟の根幹をなせる重要な産業・商業は、國家の委任によつて發企されたるものが多きを占めてゐる。株式會社の起源と言はれる千六百年頃の英蘭の東印度會社が然うであり、株式會社は特許より許可に認可にと推移し、届出設立となつて自主的私營の色彩が濃厚となつた。然るに最近は復た私企業が國策に沿ふて組織され運營せられるやうになつて、委任の實が次第に回復されつゝある。我國に於ける明治維新以後の企業の多くは國の委任によるものと見るべきである。大體に於いて統營經濟に於ける經濟事業は、國民需要に適應すべき地位の輕重に従つて、公共的直營のものと指定委託のものと或規定の下に民間に委任せられるものと白紙委任狀を授けられたやうに企業者の自由經營に委任されるものとの四段に別つことが出来る。自由經營もまた委任されたる經營であり、對世的供給をなす企業は總て國民經濟の事業として公共性を帶ぶるが、これらを意識的な統一的經營に收容せるものが即ち國民統營經濟である。經營又は經營學の語は、自由主義時代には専ら私企業に用ゐられ、國民經濟は氣の毒にも私經營主體の關聯的綜合に外ならぬと考へられ、甚しきは國民經濟

は一つの觀念形態たるに止まり實在するものでないと思はれた。この謬つた思想は今や現實の前に拂拭せられ、國民經濟の經營が文字通りに我等の認識に上つて來た。

統制經濟は今我國に於いても次第に強化されて來た。然るに統制は寬嚴宜しきを得ることが困難である。政府が私企業に對して規制を加へるのは、統一的計畫に基づくものであるが、現に企業經營に當る者の多數は經濟計畫に參與して責任を分擔するものでないから、計畫者と經營者との間に周密なる連絡なく、双方間の了解同意を缺ぐ所に統制が數々裏切られる。企業者は規制せられるを喜ばず、これより脱却しようとし、政府はこれを抑へて逃がすまいとすれば、そこには形式的合法行爲によつて統制の實を破る巧妙なる手段が講ぜられる。また統制が峻嚴になれば、企業は往々萎縮して計畫の或部分を空文化することが稀でない。殊に現當の無計畫的に發起されたる私企業を前提とする計畫は、統一さるべき周到なる各部内の配置を困難ならしめ、企業者の利益追求は、本質的に國民經濟の目的に反する行動をも敢へてして怪まないやうな缺陷さへも續用せしめる。我國現在の非常時に於て、而かも商品と見るべからざる軍需品を供給する企業の中にも、利潤増加に熱心なものが少くないのである。同じく皇國の民にして、一方には身命を賭して國を固めるものがあり、他方にはこの機會に私利を計るものがあるとするれば、これが一つの國の生活と言へるだらうか。統制はこの矛盾を解決するには力が足らない。ドイツのやうに大戰後の苦杯を滿喫した後、敵陣の中に在るかの感を以て起上つた所では、企業者も國の計畫に参加して責任を分擔し、統制も割合に好良の効果を擧げてゐるが、これとても尙ほ満足するに足らない。我國の私企業の中には、統制が何時まで續くだらうかなど、考へてゐるものも少くない。統制經濟は時勢の要求によつて出

現したものであり、これなくては現代の世界生活には處して行けぬ事情にあるが、本來この統制は公益と私益との二元相剋の惱を持ち、若も政府の勢威が弱くならば、直ちに民間の勢力によつて逆に牽制せられ、統制の制度によつて却つて逆効果を生ずる危険さへ多分にある。かゝる不安定の状態に國民經濟を置くことは、決して國策の宜しきを得たるものとは言へない。

尙ほ又統制經濟では統制の任に當る者は政府である。政府の大臣及び行政官吏は、民間の企業者を向ふに廻はして國民經濟の計畫遂行に立入るには、その職能に於いて適當でなく、この故に數々民間の企業に翻弄せられ又は裁斷に於て過誤を犯す危険が多い。官僚獨善の批難は、單に私益抑壓に對する私人側の不滿からのみでなく、例外はあるが、概してこれまでの如き法學士出身の官吏をして國民經濟の統制に當らしめることが當を得なかつたのである。後に述べるやうに、國民經濟の仕事は政治に屬せず、政府の行政官吏の仕事でないことを一言こゝに指摘して置きたい。

#### 四

統制經濟は過渡期に於いて必要なる一階段であるが、これでは克く、國民經濟の目的を實現することが出来ない。統制經濟はこれを止めなければならぬ。しかし單にこれを止めて放任經濟の方向へ退却することは、明かに經濟發展の方向に逆行する時代錯誤であり、これを希望する者は、唯だ私利追求に走つて終に己自らを破滅に導く一部の私企業者か、又は國民經濟の存在さへ知らない時代後れの自由主義者であらう。統制經濟はこれを止めて更にこれを統營經濟にまで高揚しなければならぬ。統制經濟は計畫し監督すれども實行しない。自ら實行しない

計畫は實際に即し難い缺點を伴ふ。統營經濟は計畫と共に實行する。實行に當つては官營の外に民營の企業をも多く抱擁しながら、これを一貫せる方針と指令との下に置いて、國民經濟の目的實現に當る。民營事業は各人の發企に任かすといへども國の委任せる事業であり、委任狀には國民經濟の目的實現に與らしめるやうに明確なる規定を付し、官營と民營とを結んで經營の一元化を計り、統制の内部的缺陷たる二元相剋を超克する。但し統營經濟を成功せしめるには、官營と委任民營とを以て足れりとしない。

統營經濟に於ける經營機關としては、新たに公法人格を有する事業自治體を設け、これをして官營と民營と孰れにも適切でない經濟事業を經營せしめることとする。私はこの機關を會社に代るべき公社と名づける。公社に就いては別にこれを詳説する機會があるであらうが、これは現在の公共組合の如きものであり、國民經濟の事業を經營する公共機關であつて、事業目的に關しては國家の計畫に基き國家の指令を受くるが、經營事務に就いては廣い自治を認める。公社には營利目的を許さないが、収益の分配は社員全般に互るやうな條件を付して自治に任かす。公社は會社の如き資本組織でなく、勤勞組織となし、資本の一部又は大部は國家の金融機關から供給する。公社をして次第に會社に代らしめるときは、單に統營經濟をしてその實を擧げしめ得るのみならず、今日の大問題たる資本主義經濟の惡弊を略ぼ抜本的に除去し得るであらう。

統營經濟に於ける經濟營務の主體は國家である。しかし業務を擔任する當局者は專掌の國家機關（地方自治團體を含む）と公社と民間の經營受任者とである。その公社は勿論、鐵道省の如き事業經營の局に當る國家機關と云へども政府に屬すべきものではない。こゝに政府と並立つ國家機關に就いて少しく説明を要する。從來の思想では國家と政治とを體と用との關係の如く見てゐるが、それは當つてゐない。抑も國の生活には、國の統治と國

の經營との二つが相須つて行はれなければならぬ。統治は國を固め、經營は國を開らく。統治はもとより大切であるが、我國に於ける太古以來の傳統たる國の經營が近代に到つて輕んぜられて來たことは實に遺憾である。個人主義者には國の統治と云ふ觀念さへ不明確であるから、國の經營に至つては全く思料の外にある。我國としては、統治と經營とは並立つて而かも不可分の關係に置かれてゐる。統治の作用は政治であり、その機關は政府である。經營の作用は營務であり、その機關は營所である。政治は國の諸般の生活を正だす制度及びその運用であり、營務は軍事・經濟・衛生・教育等の國の生活内容を施行することである。例へば軍事に於いては、政治に屬する軍政及び軍事省があると共に、營務に屬する軍令及び軍令部があり、戰時には特に最高の營所たる大本營が設けられる。然るに他の方面にはこの分掌が具備してゐない。教育に關しては、教政の最高機關はあつても教令のそれがない。經濟に關しては、政治の方も分立して居り、營務に到つては甚しい不統一を曝露してゐる。遞信省や鐵道省は經濟營務を掌る營所であり、教育營務に當る帝國大學の如きものと同列である。國務大臣としては當然であるが、鐵道大臣としては政治に屬する内閣會議に當然參加すべきものではない。政府に屬する人々が司法官吏及び行政官吏であり、營所に屬する人々は政府關係の官吏ではない。武官・教官・技官と云ふが如きは、國家機關たる官職にあるも、司法官及び行政官とは性質を異にする。かくの如く國家機關を政治機關と營務機關とに分ち、それ／＼に適當なる人を充てるならば、始めて國の生活が軌道に上ぼつて來る。これまでのやうに、經濟行政官廳に六法解釋流の法學士出身を採用したことさへ不適當であるが、更にそれらの行政官吏をして經濟統制の任に當らしめるから、その効果が善く舉らないのである。まして統營經濟とならば、今までのやうな法學士出身では到底致方がない。この缺陷ある所に、經濟の事は財界人に任せよなど放言するものを生ずるのであ



る。統營經濟は國民經濟の統一的經營であり、經營は軍事でも教育でも經濟でも、政治家の任務ではなく營務家の任務であり、政府の仕事でなく、營所の仕事である。統營經濟には當然に司令參謀機關を必要とし、營務練達の士を必要とし、殊に軍事大本營を設けられたる今日には、經濟本營の設置を必要とする。

## 五

「むすび」には「たかみむすび」と「ふかみむすび」との二通りある。同じ造化の大業を營むに當つても、一方では大所高所に立つて全般の經營を指導し、他方では分業をなせる各部門の持場にあつて局所深所に立入つて經營の効果を舉げる。二者は離れ得ない關係に立ち、高所よりの指導がなければ深化も迷路に入る恐れ多く、深所への探求なければ所期の目的を達することが出来ない。二つのものが相須つて造化の大業が統一せられ遂行せられる。國民經濟に於いて「むすび」の道を打建てるには、經濟業務の統一的經營に由る外はない。幸福主義も造化主義も汎人生活の目的であるから、孰れも世間生活たる國民經濟に具現し得られないことはない。されど幸福主義は個人に具現し易く、幸福を求める功利主義は利己主義又は個人相互主義となる傾向が強い。全體生活に具現し易きものは造化主義であり、また造化主義は全體生活に於いて始めてその具現の場所を與へられるのである。個人的幸福を念願とする近代經濟は窮迫して來た。全體造化の現代經濟が今熱求されてゐる。

近代の學問は個人を尊び、「創造は個人の自由より生れる」と考へる者が多いが、これは甚しい謬見である。創造は汎人的志向である。それが世間生活に具現する場合には、個人的創造ともなり、超個人的創造ともなる。超個人的實體の存することを知らない近代の觀念を以てしては、現代に興隆せる超個人的國家の創造的經營を了解し得ないであらう。統營經濟は超個人的創造の經濟であり、近代思想、殊に近代に終始せる從來の經濟學が關知

し得なかつた現代經濟である。

「むすび」の道を指導精神とする統營經濟は、我が國に出現する國民經濟である。大日本は「むすび」の國である。彼の西洋文化を目して世界文化と誤認するやうな我國一部の思想家は、我が國體や「むすび」の道を指して日本の特殊性となし、特殊のみにては價值なく、それが世界的普遍性に徹しなければ尊重するに足らぬと考へる。特殊のものといへども自國民にとつては他と換へ難い價值を持つものもある。それはそれとして、「むすび」の道の如きは決して日本の特殊のものではなく、他の國民にもこのやうなものがあるかも知れぬ。唯だ斷言して憚らない點は、斯の道は日本自體の思想及び行績であると言ふことであり、斯の道を外にしては日本の日本たる所以が失はれるのである。この自體性の中には、特殊の方面もあらうが、また世界的普遍性の方面も含まれてゐると思ふ。諸國民の各自の開化が觸流し交流し周流してやがて合流するときは、各國民の自體性の中に含まれたる實現的、世界普遍性が現實的、世界普遍性に化するのである。それが世界的開化である。中外に施して悖らずと教へたまへるは、現實に世界的普遍のものとなつてゐると言ふことではなく、世界に通じて實現的普遍性を保有すると言ふ意味を示されたのである。日本固有の道に精進することゝ世界的開化に進出することゝは、同一の方向に立つてゐる。彼の外國文化を學んで無形財産とせる者の多くは、財産愛惜の故に祖國の開化を輕んじ、日本には諸文化を攝取する能力はあつても固有の文化はないから、宜しく東西の文化を綜合して世界文化の建設に當るべきであると言ふ。こう言ふ人々は果して「むすび」の道に就いて深く思索し體驗したることがあつたであらうか。また思想と共に進んで「むすび」の道に由る統營經濟を打建てるときは、彼の共產主義經濟の如きものが、如何に低劣未熟のものであるかを明白ならしめるであらう。

私は一友人から次のやうな美談を聞いた。新海竹太郎氏の彫刻に、夫婦が荷車を挽き、妻の方は脊に幼児を負ひ、腹には臨月近い胎児を抱へて車の後押しをしてゐる有様を刻んだものがある。この彫刻は新海氏が帝都神樂坂邊にて實見した光景に撃たれ、直ちに歸宅して感激の間に刀を揮つたものであると言ふ。その刀に因みて尙ほ一挿話がある。新海氏が一日古道具屋にて見事な砥石を掘出したが、その値段が二十五圓と言はれて、財布を眺めながら空しく歸宅し憂鬱の態であつた。夫人がその事情を聞くや直ちに自分の衣裳を質入して二十五圓を得、古道具屋に駆けつけて買入れた砥石が、長く新海氏愛用のものとなつた。氏の彫刻は文部省展覽會に陳列されたが、畏くも天覽したまへる 明治天皇の御眼に止まり、御買上の光榮に浴したと言ふことである。我等は夫婦親子、而かも胎兒まで加つて荷車を挽く勞働の貴さ、これを感激のまゝに藝術の世界に移したる名彫刻家並に内助の功ある夫人の貴さと思ふ。更に尊きはその彫刻に深き御感を懷かせたまへる 明治天皇の大御心である。この美談を通じて我々の感ずる點は、そこに流るゝ一筋の靈氣は總べてこれ「むすび」の道に外ならないと言ふことである。荷車挽の夫婦は愛兒の爲に勞苦の道を力行する。それは「むすび」の魂の發露である。しかしながらその勞働には尙ほ「むすび」の道を讚美することを躊躇せしめる他の一面がある。その夫婦は果して仕事そのことを悦び勇んで爲しつゝあつたのであらうか。又名彫刻家でありながら、砥石一つ思ふやうに買へないと言ふことは、一の重大な問題となる。かような方面こそ經濟學徒が見逃すことの出来ない人生憂鬱の場面である。かゝる憂鬱を拂拭して、人々をして安らかに而かもをゝしく生き働かしめるには如何にすべきか。それは 明治天皇の宸翰に、天下一人として處を得ざるものなからしむと示したまへる所を實現するにある。その實現は「たかみむすび」の天命を奉じて「ふかみむすび」の聖業を遂行するにある。その實現の場所は一定して居り、國民統營經濟を措いて他にこれを求めることは出来ない。